

7. 疫学倫理審査

【疫学倫理審査委員会の運営】

審査依頼 平成21年5月28日 研究課題①について審査を依頼
平成22年1月26日 研究課題②③について審査を依頼
審査委員 7名（委員名は表2に記載）

【審査対象研究課題】

- ①県内に流行するウイルス性胃腸炎感染症の解明研究
ーより効率的なウイルス検出法(マルチプレックスPCR法)の新規確立・導入ー
- ②健康長寿延伸に向けた福井県民の心の健康づくりの研究
ー「笑い」を取り入れたストレス対処能力の向上をめざすー
- ③アデノウイルスの病原体サーベイランスの効果的な運用に関する研究

【審査結果】

平成21年度から実施の疫学研究1課題と平成22年度から実施予定の疫学研究2課題について、倫理面および個人情報保護の観点から審査を行った。

その結果、全ての課題について、研究対象者へのインフォームドコンセントや個人情報の保護に対し適正に対応しており、実施を「承認」する。

【研究概要】

研 究 課 題	県内に流行するウイルス性胃腸炎感染症の解明研究 ーより効率的なウイルス検出法(マルチプレックスPCR法)の新規確立・導入ー	
研 究 期 間	H. 21～22	
研 究 目 的 ・ 内 容	多種類のウイルス遺伝子を同時に増幅可能とされるマルチプレックスPCR法の導入を検討し確立することで、健康被害発生時の病因物質検索をより充実させる。さらに検出したウイルス遺伝子の塩基配列をダイレクトシーケンス法により決定し分子疫学的解析を行い、流行実態の解明につなげる。	
倫 理 的 配 慮 事 項	○医師が、研究の趣旨を説明し、同意書を得た上で、検体（糞便または肛門拭い液）を採取する。 ○研究者は、既に連結不可能匿名化された情報のみを用いる。	
	意 見	対 応
主 な 意 見 等	なし	

研 究 課 題	健康長寿延伸に向けた福井県民の心の健康づくりの研究 ー「笑い」を取り入れたストレス対処能力の向上をめざすー	
研 究 期 間	H. 22（審査対象部分）	
研 究 目 的 ・ 内 容	県民のストレスの内容や対処方法の実態を探り、ストレスの対処にどのような「笑い」が生活の中で実践され、またどのような笑いが求められているのかを調査、解明する（21年度）。その上で「笑い」の媒体を使って効果を検証し、ストレス対処に向けた効果的な「笑い」を提案する。（22年度）	
倫 理 的 配 慮 事 項	○研究者が、研究の趣旨を説明し、同意書を得た上で、介入調査（ストレスの付加および笑いの前後で唾液中のクロモグラニンAの採取、ビデオ撮影）を実施する。 ○研究者は、既に連結不可能匿名化された情報のみを用いる。また、調査研究終了後、撮影データなど個人が特定できる情報は消去する。	
	意 見	対 応
主 な 意 見 等	なし	

研 究 課 題	アデノウイルスの病原体サーベイランスの効果的な運用に関する研究	
研 究 期 間	H. 22～24	
研 究 目 的 ・ 内 容	より効率的なアデノウイルス (AdV) 検出同定法の導入のための検討を行うとともに、これまで県内で検出された AdV についてウイルスの解析を行い、その変異と流行との関連性を調査する。さらに得られた知見を感染研において集約することで、事前に流行を予測する手法を探る。	
倫 理 的 配 慮 事 項	○医師が、研究の趣旨を説明し、同意書を得た上で、検体（鼻咽頭拭い液または鼻腔洗浄液）を採取する。 ○研究者は、既に連結不可能匿名化された情報のみを用いる。	
	意 見	対 応
主 な 意 見 等	なし	

表2. 衛生環境研究センター・健康福祉センター疫学倫理審査委員会（任期 H21.4.1～H23.3.31）

委員名	所属
糸 川 嘉 則	仁愛大学人間生活学部教授 (委 員 長)
日 下 幸 則	福井大学医学部国際社会医学講座環境保健学教授 (副委員長)
高 鳥 眞 理 子	福井県立大学看護福祉学部教授
広 瀬 真 紀	福井県医師会理事
石 丸 美 千 代	福井県看護協会会長
前 波 實	福井県弁護士会
清 川 忠	福井県社会福祉協議会会長